

太田聖人の脱退に対する見解

太田聖人が10月2日に東海労を脱退した。

会社は、これまで脱退工作のためなら組合員の夢や希望を無視して、出世などのエサをちらつかせたり、逆に業務上のミスや不祥事などの組合員の弱みにつけ込んだ対応をやってきた。

会社は今年、太田聖人が5年間の駅還流を終え、運輸所への復帰を希望してたことを承知の上で、駅へ残留とした。この会社の仕打ちは、明らかに狙いがあったものである。

この間、太田は、「駅から運輸所へ戻れなかった」、「仮に脱退しても戻れる保証はない」、「駅では、会社から特別な視線で見られているから一生懸命落ち度無くプレッシャーを感じながら業務してきた」、「東海労にいと損ばかりした」、「会社・ユニオンと、運輸所に戻る約束はしていない」「いつ伝家の宝刀を使うか考えてる」など、好き放題言ってきた。

この言動を、皆さんどう思いますか！？

太田は「今回、運輸所に戻れなかったこと」の怒りや悔しさを、会社に向けることなく、自らの弱さを責任転嫁し「脱退口実」のすべてのベクトルを東海労の運動に向けたのである。全社員に対して「戻れないから仕方ない＝脱退」と自分自身を美化しているだけなのだ！

言い換えれば、会社の綿密かつ執拗な攻撃に自らが飛び込み屈服したのだ！

おそらく、会社からのご褒美として数ヶ月後の運転士として運輸所への復帰、また数年後、管理者として運輸所への復帰を約束された「脱退」なのであろう！

そして、出向や他職場の過酷な労働条件でも東海労組合員として頑張っている仲間がいる中で、仲間を裏切る行為について決して許されるものではない。

2014年10月7日
JR東海労新幹線関西地方本部
大阪第二運輸所分会